

特集

喜びの陰にある苦悩と葛藤 JA遠州夢咲青年部に 聞きました

市民と議会をつなぐ特集ページです。
今回は、JA遠州夢咲の青年部のみなさんから、農業を通じて得られる喜び、苦悩、葛藤など日々感じていることを聞きました。

「おいしいと言われることにやりがいを感じています。」

〈この地区で何を作っていますか。就農年数や農業をされていて良い点は？〉

・平川で8年になります。お米やブロッコリー、ニンニク、サツマイモなどの野菜を作っています。良いことは上司がいないことです。

・赤土原で就農して12年になり、お茶と花を作っています。自分のペースで仕事ができ、やりたいことがストレートにできることが良いことです。

・河城で7年です。お茶、お米、レタスを作っています。良い点は、時間が自由に使えることで、おいしいと言われることにやりがいを感じています。

・神尾で17年目になります。お茶とお米を作っています。地域に農家が多く、親世代ともコミュニケーションが気楽にできるようになりました。

〈温暖化や鳥獣被害対応はどのようにしていますか。菊川市の農業が抱える課題と解決に必要な対応は？〉

・昨年の台風での停電や凍霜害はある程度仕方ないですが、温室栽培では停電、燃料の高騰は痛手です。鳥獣被害は電気柵をするしか対策がありません。

・夏の干ばつの時は、水やりをするのが大変です。台風の塩害はどうしようもないです。異常気象で成長が早くなり、採れ過ぎてしまつて値下がったり、雨不足で出荷が大幅に遅れたりするので、品種を変えて対策をしています。



黒田学さん



赤堀貴彦さん

・3か月予報の気象データを活用し、リスク管理をして種苗を選定していますが、なかなか思いどおりにはいかないです。

・JAの指導は、生産者によって違います。農業生産法人との情報共有も必要で、取引先によって変わるとしています。

〈荒廃農地が増加していますが、菊川市の新たな夢のある転換作物などの対策に対し、意見や提案はありますか？〉

・経験のない転換作物作りは、設備投資に高額な資金が必要で、投資を回収できるかという心配があります。ノウハウを身につけ



岩澤勝久さん



赤堀安彦さん